

第68回 女優・小川知子の 『ビューティフル』な転進

昭和40年代前半までテレビの歌番組といえば、午後10時までに終了してしまうのがほとんどでしたが、そこに登場したのが昭和43年に始まった『夜のヒットスタジオ』でした。

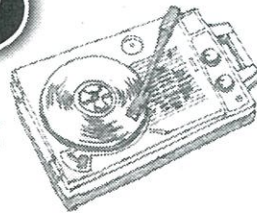
11月という番組改編期でもない時期に始まり、それも月曜日の夜10時スタート、モノクロ放送だったことを考え合わせると、局からもさほど期待されていたわけではなかったのでしょう。それだけに、歌謡ドラマなど新手の企画を取り入れ、従来の歌番組のイメージを払拭しようとする頭張りまです。なかでも出色だったのが、中村晃子やいしだあゆみが号泣した「コンピュター恋人選び」でした。大きなコンピュターをバックに、モグラのお兄さんこと小林大輔アナが「これ以上似合いの恋人はいません」といって恋人の名を読み上げるシーンは、預言者のお告げを拝聴するかのような緊張感を強いられました。

悲しいかな、半世紀前からコンピュター信仰はすでに始まり、コン

ピュターによって人々が踊らされていたことがわかります。「恋人選び」に登場したいしだあゆ

名曲カルテ

昭和歌謡と いつまでも



堀井六郎
絵・松本浦



みが泣き出して『ブルー・ライト・ヨコハマ』を歌えなくなったとき、励ますかのように隣で一緒に歌っていたのが、小川知子でした。

番組が始まった頃の昭和43年末といえ、フォーク・クルセダーズの『青年は荒野をめざす』、岡林信康の『友よ』『山谷ブルース』などが発売された時期で、高校2年の私は、和製フォークやGSソングに夢中でした。『大奥物語』という高校生にとっては刺激的な東映映画に出演していた3歳年長の女優さんが歌手として登場、これもまた意味深なタイトルの『ゆうべの秘密』がヒットしたおかげで、女優さんは見事に人気歌手への転進を果たしました。

降も続けるのですが、小川のシングル盤を追いかけると、その例に当てはまらず、さまざまな作詞家・作曲家・編曲家との組み合わせが楽しめます。

私のお気に入りの1曲として、デビュー3年後の昭和46年2月に発売された、詞・橋本淳&曲・筒美京平のコンピ作品『美しく燃えて』があります。「愛され、抱かれ、涙し、捨てられる」という恋物語が「ビューティフル」という言葉で括られた隠れた佳曲です。

昭和45年9月まで開催された「大阪万博」の終了後から展開された富士ゼロックスの「モレッツからビューティフルへ」というCMコピーを、橋本が歌詞として活用したのですが、すでに橋本は万博閉幕の2か月後の11月に、平山三紀(現みき)のデビュー曲として『ビューティフル・ヨコハマ』を発表しています。

この作品は曲名からして、いしだあゆみの『ブルー・ライト・ヨコハマ』の続編的な趣があり、少々強引ですが、「サチオ君」という名前と因縁深い小川といしだの関係、美しくこじつけてみました。